

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人三重県文化振興事業団	
施 設 名	三重県総合文化センター 三重県文化会館	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額（総額）	27,326	(千円)
公 演 事 業	18,056	(千円)
人 材 養 成 事 業	5,427	(千円)
普 及 啓 発 事 業	3,843	(千円)

## (2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、 主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	東京デスロック+第12言語演劇スタジオ「カルメギ」	7月13日(金)～15日(日)	脚本・演出協力：ソン・ギウン 翻訳：石川樹里 演出：多田淳之介	目標値	315人
		三重県文化会館 小ホール		実績値	257人
2	習志野高校吹奏楽部 三重特別演奏会	8月29日(水)	演目：ブラック・ライト音楽劇ほか 出演：習志野高校吹奏楽部 指揮・指導：石津谷治法(習志野高校吹奏楽部顧問)	目標値	2,975人
		三重県文化会館 大ホール		実績値	2,199人
3	宮川彬良指揮 新日本フィルハーモニー交響楽団	11月25日(日)	曲目：シンフォニック・マンボNo.5ほか 指揮・ピアノ・司会：宮川彬良	目標値	1,143人
		三重県文化会館 大ホール		実績値	1,476人
4	青年団「ソウル市民/ソウル市民1919」2部作	12月1日(土)・2日(日)	作・演出：平田オリザ 出演：山内健司ほか	目標値	315人
		三重県文化会館 小ホール		実績値	473人
5	ロシア国立サンクトペテルブルグ・アカデミー・バレエ「くるみ割り人形」	12月24日(月祝)	原振：M. プティバ 芸術監督：アンドリアン・ファジェーエフ	目標値	1,184人
		三重県文化会館 大ホール		実績値	1,135人
6	第七劇場 日台国際共同プロジェクトvol.3「珈琲時光」	2月10日(日)～11日(月祝)	脚本：王嘉明 演出：王嘉明・鳴海康平 出演：Fa、圏圏、佐直由佳子ほか	目標値	315人
		三重県文化会館 小ホール		実績値	325人
7	上岡敏之指揮 新日本フィルハーモニー交響楽団	3月9日(土)	曲目：プロコフィエフ/ピアノ協奏曲第3番ほか ソリスト：吉見友貴(ピアノ)	目標値	1,143人
		三重県文化会館 大ホール		実績値	896人
8	朗読アウトリーチ M-PAD2018	11月14日(水)～24日(土)	演目：「耳なし芳一」ほか 出演：百景社(茨城)ほか	目標値	460人
		県内各所		実績値	548人
9	ミエ・ユース・ウィンド・オーケストラ2019 特別演奏会	3月21日(木祝)	曲目：チャイコフスキー/大序曲1812年ほか 音楽監督・指揮：門脇賀智志	目標値	400人
		鈴鹿市文化会館けやきホール		実績値	535人
10	ミエ・演劇ラボ2019 発表公演	3月9日(土)・10日(日)	総合ファシリテーター・演出：柳沼昭徳(烏丸ストロークロック主宰)	目標値	110人
		三重県文化会館 第2リハーサル室		実績値	164人
11	ヘンゼルとグレーテル スライドコンサート	2月17日(日)	指揮：櫛田誠 演出：碓井士郎 管弦楽：三重フィルハーモニー交響楽団、三重ジュニア管弦楽団 児童合唱：津児童合唱団	目標値	1,157人
		三重県文化会館 大ホール		実績値	1,502人
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	9,517人
				実績値	9,510人

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	第25回新日本フィル演奏クリニック	1月26日(土)~10日(日)	講師：新日本フィルハーモニー交響楽団員ほか	目標値	400人
		センター内各所		実績値	457人
2	三重ジュニア管弦楽団育成事業2018	通年	講師：新日本フィルハーモニー交響楽団員ほか	目標値	60人
		センター内各所		実績値	51人
3	第21回舞台創造講習会	4月28日(土)・6月23日(土)	講師：第七劇場劇団員ほか	目標値	300人
		センター内各所		実績値	392人
4	青年団監修 戯曲アカデミア	通年	講師：平田オリザ、松井周	目標値	20人
		センター内各所		実績値	216人
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	780人
				実績値	1,116人

## (2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	0iBokkeShi × 三重県文化会館 ‘介護を楽しむ’ ‘明るく 老いる’ アートプロジェクト	通年	講師、発表公演作・演出：菅原直樹 (0iBokkeShi主宰)	目標値	300人
		県内各所		実績値	723人
2	クラシックレクチャー 「加 羽沢美濃のクラシック音楽講 座」	通年	講師：加羽沢美濃（作曲家・ピアニ スト）	目標値	400人
		県内各所		実績値	297人
3	雅楽レクチャー 「雅楽はす ごい！」	1月18日（金）	講師：野原耕二（音楽プロデュ ーサー）	目標値	331人
		三重県文化会館 中ホール		実績値	391人
4	文化体験パートナーシップ活 動推進事業	通年	プログラム提供団体：三重県三曲協 会ほか	目標値	2,500人
		県内各所		実績値	3,229人
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	3,531人
				実績値	4,640人

## 【妥当性】

### 自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

私どもが掲げるミッションは以下3点である。

- ①劇場法時代の理想の劇場づくりを推進し、芸術文化を愛する人や劇場で輝く人で賑わう県民文化のプラットフォームを目指す
- ②三重県のリーディングホールとしての役割を果たし、県民や市町劇場に対し中核的拠点機能を発揮する
- ③「アートと教育」「アートと福祉」「アートと国際交流」など、アートの持つ力で地域課題と向き合う劇場を目指す

①に関して、平成30年度は施設稼働率が年間81.7%と開館24年で第2位となる活況で、年間来場者数は過去最高の785,309人を記録する等、文字通り県民文化のプラットフォームを実現している。

②に関して県内では当館でしか開催が難しい海外オペラ・バレエ公演を開催したほか、「加羽沢美濃のクラシック音楽講座in松阪」「みえ県展熊野移動展」など市町劇場との共催事業を実施した。また、4市町劇場主催事業に対し総額3百万円の助成金交付を実施し、財政面から市町劇場事業を下支えした。

③に関して「アートと教育」では学校アート出前授業を72校で開催し、3,229人の児童が参加した。「アートと国際交流」では日韓合作「カルメギ」と日台合作「珈琲時光」2つの演劇公演を開催した。「アートと福祉」では「介護を楽しむ」「明るく老いる」アートプロジェクトに取り組んだ。

以上の通り、ミッションに即して効果的な事業展開が図られていると自己分析している。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

助成財源のおかげで、予算規模が大きいものの当館のミッションから取り組むべき新規事業を創出している。海外招聘オペラ・バレエ公演をはじめ、国際合作の演劇公演、当館の強みである県内文化団体との密接な関係を活かした、三重フィルハーモニー交響楽団、三重オペラ協会、津児童合唱団、三重ジュニア管弦楽団が共演した「ヘンゼルとグレーテル スライドコンサート」などを開催することができた。

また、人材養成事業では新たに劇団青年団が監修する年8回のシリーズ講座「戯曲アカデミア」を立ち上げたほか、普及啓発事業では高齢社会に対しアートの社会的効用を発揮し、その検証を行う「介護を楽しむ」「明るく老いる」アートプロジェクト」に取り組み、助成財源によって文化的・社会的・経済的意義のある活動を積極的に展開している。

## 【有効性】

### 自己評価

目標を達成したか。

1) 公演事業の目標達成状況は以下の通りであった。

- ①年間公演満足度（5段階評価上位2位） 目標95%以上に対し、96.8%（過去最高）
- ②年間公演満足度（5段階評価上位1位） 目標60%以上に対し、70.9%
- ③劇場会員制度「シアターメイツ」会員数 目標2,700人以上に対し、2,593人
- ④インターネットチケット販売システム「エムズネット」 目標会員数13,000人以上に対し、14,329人
- ⑤入場者・参加者数 目標22,523人以上に対し、26,652人
- ⑥入場者・参加者率 目標82.0%以上に対し、78.0%
- ⑦収益率 目標92.0%以上に対し、87.8%

満足度は過去最高水準を記録したものの、一部オーケストラ公演や室内楽公演の集客低調が響き、入場率や収益率は目標を下回った。劇場会員数は減少したものの、それを上回るペースでエムズネット会員は増加している。

2) 人材養成事業の目標達成状況は以下の通りであった。

- ①年間事業参加者満足度（5段階評価上位2位） 目標90%以上に対し、97.3%
- ②年間事業参加者満足度（5段階評価上位1位） 目標60%以上に対し、70.2%
- ③入場者・参加者数 目標12,003人以上に対し、13,878人

いずれも目標を大きくクリアしている。3) 普及啓発事業の目標達成状況は以下の通りであった。

- ①年間事業参加者満足度（5段階評価上位2位） 目標90%以上に対し、97.3%
  - ②年間事業参加者満足度（5段階評価上位1位） 目標60%以上に対し、70.2%
  - ③文化体験パートナーシップ活動推進事業における指標 事業実施校 目標のべ70校に対し、72校
  - ④入場者・参加者数 目標6,900人以上に対し、11,642人
- いずれも目標を大きくクリアしている。

## 【効率性】

### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。  
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### 【事業期間】

平成30年度事業計画に対し、台風の影響で2事業（加羽沢美濃のクラシック音楽講座、三重ビッグバンドフェスティバル）が開催日を延期したが、両事業とも振替日程で年度内に事業を開催した。その他事業は全て計画通りの期間と開催日で実施した。

【事業費】平成30年度事業計画の各数値と事業報告の各数値は以下の通りとなった。

①年間総事業費 計画185,944,617円に対し、報告170,198,780円（目標対比△15,745,837円）

②年間総収入 計画120,944,617円に対し、報告118,161,559円（目標対比△2,783,058円）

③年間収支差額（①－②） 計画65,000,000円に対し、報告52,037,221円  
収入実績が計画をやや下回ったものの、それ以上に経費削減を達成しており、収支差額は予算比で約13百万円改善されている。

## 【創造性】

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

現館長の梶吉宏が平成13年度に就任し、㈱ヤマハや音楽の友在籍時代からの音楽人脈と館長就任後に築き上げた地元音楽団体との強固なパートナーシップを基に、次々と三重オリジナルの企画を立ち上げている。三重ジュニア管弦楽団の指揮者兼事務局長として育成に関わるほか、まもなく100回を迎える看板シリーズ「ワンコインコンサート」を立ち上げ、地元音楽団体と連携した0歳児から入場可能な「ヘンゼルとグレーテル スライドコンサート」や、「三重ビッグバンドフェスティバル」などオリジナルコンサートを次々とプロデュースしている。また、昭和音大卒の音楽プロデューサーの鈴木智之が「加羽沢美濃のクラシック講座」や「三重県文化会館produceソリストシリーズ」を新たに企画するなど、若手職員も専門性を活かして活躍している。

演劇分野では現副館長兼事業課長の松浦茂之が平成19年度に現部署に異動し、全国的にも注目を集める多彩な事業を展開している。小ホール24時間連続使用による「Mゲキセレクション」をはじめ、地元演劇人育成と創作を兼ねた「ミエ・演劇ラボ」、アウトリーチプログラム「おいしくてあたらしい料理と演劇のたのしみかたM-PAD」、高齢社会に対するアートの効用を実践検証する「‘介護を楽しむ’ ‘明るく老いる’アートプロジェクト」等をプロデュースしている。

フランチャイズ団体としては平成9年に新日本フィルハーモニー交響楽団と関西拠点契約を締結し、年2回の定期演奏会、三重ジュニア管弦楽団の指導、新日本フィル演奏クリニックなどの人材養成事業に力を入れている。また東京から三重へ拠点移動した劇団・第七劇場は準フランチャイズカンパニーとして位置付けており、日台国際共同制作演劇など毎年新作公演を当館がプロデュースしている。その他、劇団・青年団とは平成13年度から強固なパートナーシップを構築しており、隔年での劇団公演開催をはじめ、平田オリザ氏が講師を務める「青年団監修 戯曲アカデミア」など人材養成事業に協力いただいている。

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

三重県には芸術文化専門の大学や芸術文化の学部・学科を設けている高等教育機関がないため、プロアーティストの指導を受けられる機会がほとんどない。このため実演芸術の技量向上を図る機会やアートマネジメントを学ぶ機会の提供は当館にその役割が求められている。当館では三重大学との共催で平成26年から毎年「舞台芸術振興のためのアートマネジメント人材育成講座」を開講しているほか、音楽分野では「新日本フィル演奏クリニック」「三重ジュニア管弦楽団育成事業」などの人材養成事業が地元演奏家の技量向上に寄与している。演劇分野では劇作家輩出を目指した「青年団監修 戯曲アカデミア」、演劇人輩出と創作を兼ねた「ミエ・演劇ラボ」などの実演家育成に取り組んでいる。

また、長年にわたって県民の自己研鑽の発表の場やコンクール事業にも取り組んでおり、舞台芸術の発表の場となる「みえ県民文化祭」、若手音楽家の登竜門「みえ音楽コンクール」、美術愛好家のための公募展「みえ県展」など多くの事業が地域の文化芸術発展に寄与している。



## 【持続性】

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

指定管理者制度が始まって以来全ての経費が圧縮基調であるのに対し、人件費だけは人員数はそのまま5千万円強増加しており、それらは全て職員の処遇改善や研修支援・福利厚生に充てられている。当事業団の経営改革や組織改革は先進事例として全国の研修会に招聘され、各地の劇場から視察を受け入れている。下記事例にあるような当事業団独自の組織づくりと人材育成を推進している。

#### 1) 職員登用制度

3年有期雇用の専門員から無期雇用の年俸制専門員へ、更に正規職員へと内部登用制度が整備されており、雇い止めの無い、職員のやる気が出る人事制度が確立している。

#### 2) 研修制度

当事業団はISO9000の認証登録を受けており、全ての職員の業務要件が明確化され、不足している業務スキルに対して個人ごとに①集合研修、②外部派遣研修、③OJTの年間研修計画が組まれている。資格取得や海外派遣研修も積極的に推奨しており、充実した研修制度となっている。

#### 3) 福利厚生制度

職員の自己研鑽活動に対して、一人年間2万5千円を支給するカフェテリアプランをはじめ、復職再雇用制度（ジョブ・リターン）など、職員の働きやすさや満足度向上に取り組んでいる。